

# 特性 ということ。

きつかけはAくんの話だったんだ。

ハンドソープを最後まで出し切るAくんの話を聞いてさ、思ったんだよね。ああ、世の中にはいろいろなもの見方があって、Aくんもそう見てくれた人がいたから、今があるんだなあって思ったんだよ。

Aくん？ 自閉スペクトラム症と呼ばれる「特性」をもった優しい男の子だよ。「もう入ってないよってハンドソープがカコカコっていうまで、ポンプを押し続けるんだ。周りのひとは」どうしてそんなに出すの？」って思うけど、Aくんは出し切ること、一生懸命。だから、Aくんはこの音が鳴るととてもうれしくなるんだよ。やった!!出し切ったぜ!ってさ。

ね？ ちよつと分かったかな？ Aくんがなんでハンドソープを一生懸命出すのか。全部出したんだよ。使う分だけ出そうとか、こんなに出したら無駄になっちゃうなーなんて考えない。全部出したいのさ。でもね。周りのひとたちはAくんのことは分からないよね。なんでこんなに出してるの？もういいじゃん！十分じゃん！ってなるよね。

わからないことって不安だよな。怖いよね。わからないまま見なかつたことにしちゃう人もい

るかもね。でもね、安心して。Aくんがやろうとしていることをみんなに教えてくれたり、どうしてハンドソープを全部出しちゃうのかAくんと一緒に理由を探してくれる人たちがいるんだよ。わかるとさ、あーそうなのかなーなんだよ。Aくんのことかわかるとさ、怖くなくなる。そしてさ、Aくんも生活しやすくなるんだよね。そんなことができる人たちがいるんだ。すごいよね。

その人たちは療育の先生たちだよ。療育(りょういく)はAくんたちが生活しやすくするよう

にサポートすることなんだ。さつき話した、自閉スペクトラム症っていうのはほかの人と話すことが苦手だったり、ハンドソープを最後まで出すっていうように強いこだわりを持っている人たちのことで、発達障害といわれるもの。病気ではなくて、その人たちが持っている特性だね。

療育の先生にこんな人がいるんだよって話を聞いたから少し紹介するね。

みんなは蛍光灯を見てもチカチカしないよね。蛍光灯のなかには電子っていうとっても細かい電気の粒が1秒間に何万回っていうものすごい速さで飛んでいて、それがぶつかることで光っ

ているんだけど、そのぶつかるのが見えちゃう人がいるんだよ。だから、蛍光灯を見るとババババーバーって細かく光るから眩しくて見られない。ほかのひとが見えない動きが見えるっていうのはものすごい能力だけど、蛍光灯があると困るよね。そこにいるのが苦痛になっちゃう。それでね、療育の先生は職場の方に、サングラスをかけてもいいですか？って話してくれたんだ。それで職場にいても眩しくなくな

ったんだって。多動症っていうじつとしてられない人たちもいる。いつも動いているわけではなくて、最初は座っていられたんだけど、10分など時間が経つと立ち上がって動き回ってしまうんだ。それからずっと動いているかっていうとそうでなくて、少しすると落ち着いて座ることができるようになる。療育の先生は聞いたんだって。どうして立ち上がって動いちゃうの？って。そうしたら、ここら辺がムズムズするんだよ！ってお尻と背中のつなぎ目あたりをさすったんだってさ。

先生のすぐそばにここにがあるんだなあって思ったよ。ムズムズするならしょうがない。どうしようもないほどにムズムズするのには、座ってなさいっていうのは拷問だよな。それなら、10分おきに「ゴミ拾いタイム」にしてみればいいじゃないって言ったんだよ。そうすればみんなは不思議

議に思わないし、彼だつて動いてすつきりすることができてる。

大切なのはどうしてなのかわかること、そのためにもどんな方法があるか考えて見つけることなんだよね。

世界は広いし、いろんな人がいる。知らないことは怖いと思つ気持ちもわかる。でもね、そのわからないことをみんなに伝えて、障害をもつ人たちが住みやすくする、生活が少しでも過

しやすくなるように方法を見つけている人たちがいるんだよ。今日はそんな人たちのことを知つてもう伝えると嬉しいなあ。ボクも正直怖かったよ。Aくんのような特性をもった人たちのことを知りたいんだけど、どんなことを聞いてはいけないのか、どんなことを書いてはいけないのかと、「いけない、ダメ」ってことばかりに気を取られていて、神経質になっていた気がする。それでね、とりあえず、療育の先生に話してみたいんだ。そうしたら、こんなにステキな人たちがいるんだって知ることができたんだ。まだわからないことばかりだし、考えなくてはいけないことはものすごくあると思う。でもね、考えたこと、聞いたことをわかりやすく伝えていくという一歩をあゆみ始めることにしたんだ。

